

**平成 23 年度
財団法人丹後地域地場産業振興センター事業報告**

総括的概要

昨年 3 月に発生した東日本大震災は東北・関東の沿岸部に壊滅的な被害をもたらすとともに福島原発の事故により日本の経済、流通は大きく変化しました。

また、世界経済においても EU 諸国の信用不安、イラン状況による原油価格の高騰など厳しい局面にありました。

このような背景から丹後地域経済も非常に厳しい 1 年であったといわざるを得ません。

当センターにおいては、このような状況下において丹後産品の販路の拡大、地域 PR による地域誘客に重点を置き、丹後産品集積活性化事業を柱に各種の事業を展開するとともに、公益法人制度改革における公益財団法人への移行に取り組み、平成 24 年 4 月 1 日をもって移行完了いたしました。公益財団法人としてコンプライアンス、ディスクロージャーがますます求められ、これらの変化に対応する体制を整備しました。

以下、本年度の事業内容をご報告いたします。

I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業 1）

1 地域ものづくり支援事業

企業からのパッケージング、商品表示ラベルの表示方法等の相談を受け、商品開発、販路開拓の支援事業を実施しました。

また、京丹後市地域再生協議会に参画し農産品の高付加価値化を図るため、規格外野菜を使用したドレッシング製造を実際に体験してもらい、商品化の流れ、ホットパック等の品質長期化方法、パッケージングの重要性について研修を実施しました。また、Re 丹後 LLP を事業主体として、ドレッシングコンテストを実施し、上位商品を平成 24 年度において商品化する予定です。

資料 1

II 人材育成事業（公益目的事業 1）

1 販路開拓研修事業

京丹後市地域再生協議会に参画し、農産物等を販売するためのマーケティング研修を実施しました。また、地域生産物を集出荷する為に

設立した R e 丹後有限責任事業組合組合員のスキルアップを目的に、同協議会において徳島マルシェの視察研修を実施しました。

資料 1

2 手織体験講座

研究開発棟織物開発室を織物産地の P R の場として活用するため、手織体験を実施する指導員を養成する研修を実施しました。研究開発棟には、手織 5 台を設置し平成 2 4 年度から染色体験に加え、手織体験の受入を目指します。

Ⅲ 需要開拓事業（公益目的事業 1）

1 丹後ブランド商品認定事業

(1) T a n g o G o o d G o o d s 認定事業

事業開始以来 1 3 年目を迎える T a n g o G o o d G o o d s 認定事業を今年度も実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進しました。するとともに特定保健食品の普及により、商品表示及び陳列についても一層の厳格化が指導されており審査基準においても認定品としてのコンプライアンスはもとより、着色料、保存料等についても再度製造者の意識を高め、T a n g o G o o d G o o d s としての質的向上を図りました。また、認定品への T a n g o G o o d G o o d s ロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品として差別化を図りました。

ア 認定状況

(ア) 申請状況

申請者数 4 6 業者、申請商品数 9 5 点（再申請 6 2 点、新規申請 3 3 点）

(イ) 認定状況

認定者数 4 6 業者 認定点数 9 3 点

通算（平成 2 1 年度～ 2 3 年度）認定者数 9 3 業者、認定点数 2 5 3 点

(ウ) 優秀産品表彰

優秀産品表彰制度は、認定品の中で特に優秀と認められるものを選定・表彰する制度ですが、本年度は該当する商品はありませんでした。

イ T a n g o G o o d G o o d s 認定推進協議会開催

認定事業実施においては、認定推進委員会委員 1 0 名に就任いただき認定について協議いただきました。

(ア) 第 1 回 T a n g o G o o d G o o d s 認定推進委員会

平成23年6月21日（火）午後2時開催

(イ) 第2回Tango Good Goods認定推進委員会

平成23年8月3日（水）午前10時開催

(イ) 平成23年度Tango Good Goods審査会

審査員として専門家（デザイナー、食品アドバイザー、マーケティングアドバイザー）3名を委嘱し、審査会を開催しました。

審査会日時 平成23年8月2日（火）・3日（水）

審査終了時に、全体講評及び商品個別相談を実施

ウ Tango Good Goods認定事業アンケート調査の実施

認定事業の成果及び今後の事業展開の資料とすることを目的に、認定事業者99業者にアンケート調査を実施しました。

回答者数19業者、回答率19.1%

資料2

エ Tango Good Goods認定品カタログの作成（B to B）とバイヤーへの配布

平成23年度認定品を掲載したカタログを作成し、見本市等でバイヤーへ配布しました。作成部数1,000部

(2) 第13回Tango Good Goods見本市の開催

第13回目となる丹後ブランド産品見本市を京都丹後ブランド産品会との共催により宮津市において開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図りました。

資料3

2 京都丹後ブランド産品会の支援及び地域特産品販路開拓事業

Tango Good Goods認定事業者のなかから地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、新商品開発及び商品改良指導、販路開拓等の事業を実施しました。

(1) 主な事業

ア 都市部での丹後のええもんうまいもん展の開催

イ 展示即売会等の開催情報の提供

ウ 中元カタログ及び歳暮カタログの作成配布

3 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

平成22年度に構築したシステムを活用し、Re丹後有限責任事業組合を中心に、丹後産品の集積と販売を本格稼働しました。

また、提携先の（株）ぐるなび総研を窓口として大手飲食店検索サイトぐるなびと協力し、丹後製品の販売のみならず地域PR及び誘客事業を実施しました。

資料4

4 展示ギャラリー活用事業

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用しました。

資料5

5 体験事業

(1) 染色体験事業

観光客等が地域資源である丹後ちりめんの理解を深め、ちりめん産業に触れてもらう機会を創出するため、網野染織研究会「茜」の協力を得て染色体験を実施しました。

受入体験者数 318名

(2) 手織体験・資料展示事業

本年度は研究棟織物開発室を改装、手織を設置し、平成24年度からの手織体験実施を目指し、講師の育成を目的に手織講習を開催しました。

受講者数 11名

6 CATVによる地場産品紹介事業

センターに設置されたCATVスタジオと連携し、地域内外へ地域資源（観光・産品・産業）を紹介しました。

IV 情報収集・提供事業（公益目的事業1）

1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工し新商品の開発、改良の基礎資料としてもらうため出展者へ毎月アミティ情報を発行しました。

消費者の購買動向、生の声を伝えることにより出展者の経営基盤強化とセンターとの意思疎通を図ることができました。

資料6

2 センターホームページによる地域資源発信事業

地域情報、センター情報、産品情報、公告等をホームページで発信しました。地域生産者、消費者が手軽に利用できタイムリーな情報を提供できました。

アクセス件数 13,524 件

PV件 43,236 PV

また、アミティ丹後及びホッと丹後のブログを開設し、身近な情報を提供することで、地域及びショップへの誘客を図ることができました。

3 アミティ丹後出展者会

アミティ丹後出展者会会議を随時開催し、即売室情報を基に商品展示方法、企画展開催などの情報交換、事業を行いました。

会議回数 5回

企画展開催回数 2回

出展者直売会開催回数 2回

4 物産展等の販売機会情報収集提供事業

各地域地場産センターや地域内外のイベントなど地域PRに有効な物産展情報を収集し、出展意欲のある企業へ情報提供を実施し地域PRの機会を提供しました。

資料7

5 観光情報発信事業

当センターに事務局を置く、京丹後市観光協会と協同で丹後地域の観光を来館者へ提供するとともに、ホームページ、各種物産展等へ共同出展し、丹後の観光情報を発信しました。

V 地場産品展示普及支援事業（公益目的事業1）

1 地場産品常設展示

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目指す常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ地場産品約1700品目に及ぶ製品を展示しており、来館者の注目も高く、観光関連業者からの紹介も増加してきました。

地域の観光資源としての機能強化を図るとともに、丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努めました。

店舗における購買動向を分析することで、出展者の商品開発、改良に寄与するほか、センター事業の企画立案の基礎となっています。

また、店舗における商品の見せ方を工夫することで、商品の特徴、魅力をアピールするVMDに努め、出展者の商品の魅力発信力を強化するとともにバイヤーへのVMDを含めた商品提案を行いました。

2 丹後産品情報発信事業

消費者向けカタログ（中元・歳暮・通年の3種）の作成配布、ECサイトの運営を行い、丹後産品を全国に向け広く周知しました。

（1）エンドユーザーへの丹後産品のPR、新たな丹後ファン獲得を目指し、近畿地場産センターとの連携によるショッピングモールをポータルサイトとして、ECサイト運営行いました。

アクセス数 12,638件

PV数 42,252PV

（2）上記ショッピングモールと連動し、歳暮及び中元期の通信販売カタログの作成と配布、両期間以外の通年カタログの配布を行いました。

VI 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、宮津市、京丹後市、与謝野町との連携により各市町の特産および地域PR、サテライト販売、生産者直売など多角的に展開し、都市部でのデータを収集するチャレンジショップ及びアンテナショップとして活用・展開しました。

資料8

VII 会館提供・コミュニティー事業（収益事業1）

1 会場提供事業

センター2階施設を地域住民、企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出すとともに地域コミュニティーの場として地域活性化の一助としました。

資料9

VIII 誘客販売事業（収益事業2）

1 販売事業

来館者等の利便に資するため土産品としてキーホルダー等の販売を行いました

2 たんご朝市の開催

たんご朝市は、開設11年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ており朝市出展者会の協力の下、本年度も引き続き朝市を毎日曜日

開催しました。

Ⅸ 管理事業

1 理事会の開催

センターの適正・円滑な運営を図るため、理事会を開催しました。

開催日	主な審議内容
平成23年5月30日	平成22年度事業報告・決算報告 新公益法人制度に係る定款についてほか
平成24年3月29日	平成24年度事業計画案・予算承認 公益財団法人諸規則及び規程の制定ほか

2 監査会

平成23年5月19日 平成22年度事業・決算監査

3 新公益法人制度改革対策事業

○平成23年7月1日

新公益法人制度に係る個別相談会において移行認定申請書に係る内容を相談

○平成23年7月20日

移行認定申請書提出

○平成23年7月27日・28日

公益法人会計セミナー基礎編受講（主催公益財団法人公益法人協会）

○平成23年10月6日・7日

公益法人会計セミナー実務編受講（主催公益財団法人公益法人協会）

○平成24年2月13日・14日

公益法人会計セミナー決算編受講（主催公益財団法人公益法人協会）

○平成24年3月16日

公益財団法人認定書交付（京都府知事認定）